

経営比較分析表

佐賀県 雄野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.02	100.00	2,700

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,308	126.41	216.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6	0.01	600.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	平成27年度全国平均

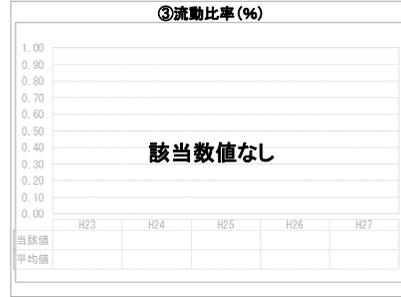
1. 経営の健全性・効率性



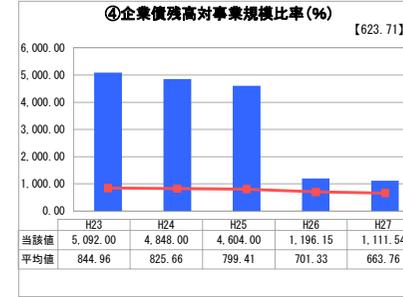
「単年度の収支」



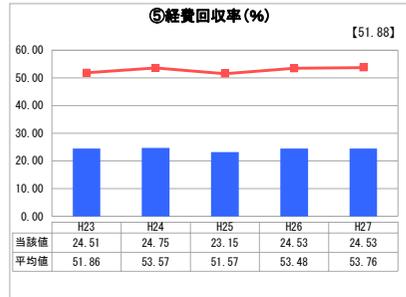
「累積欠損」



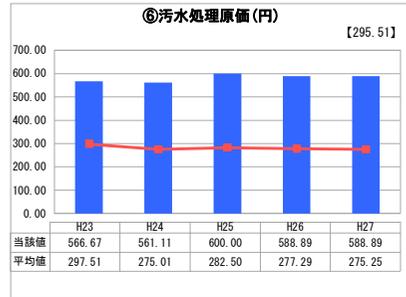
「支払能力」



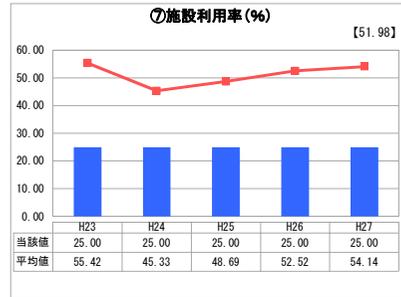
「債務残高」



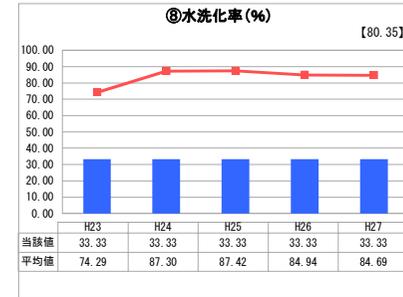
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

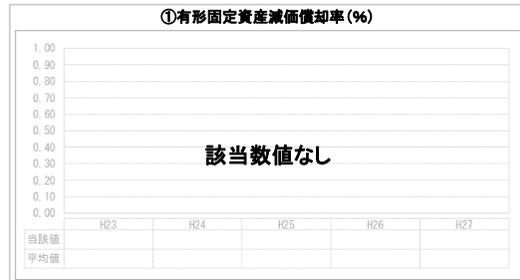


「施設の効率性」

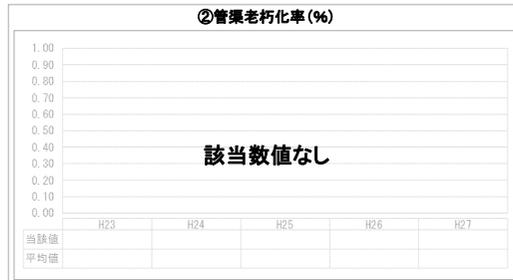


「使用料対象の捕捉」

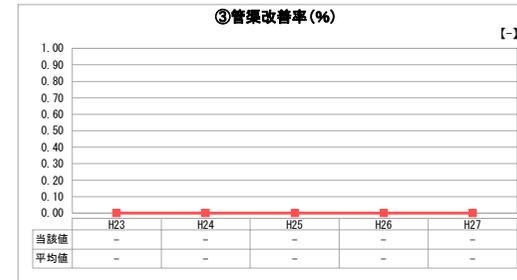
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
指標は、年々向上していたが、平成27年度は62.69%となっており、経常収支は赤字である。経常収益については、使用料以外の収入に依存しているため、料金の見直しも含め経営改善を図っていく。

④企業債残高対事業規模比率
料金収入に対する企業債残高は、類似団体より平成27年度は低く推移した。平成26年度以降かなり改善されているが、料金の見直しにより更なる改善を目指す。

⑤経費回収率
使用料で回収すべき経費についても、類似団体の平均より著しく低くなっているため、料金の見直し、業務の効率化、適正な使用料収入の確保が必要とされる。

⑥汚水処理原価
汚水処理に要した費用については、類似団体より高く推移しており、施設の効率を高めることが必要とされる。

⑦施設利用率
指標は平均より低く推移している。施設の効率を高めるため検討が必要である。

⑧水洗化率

2. 老朽化の状況について

平成9年に整備を行っており、管渠等の老朽化はまだ発生していない。

全体総括

現在、農業集落排水（個別処理を含む）と公共下水道の料金体系が異なるため、料金体系を統一する予定である。今後の適正な使用料の収入の確保、汚水処理費の削減等により、経営の改善を見込む。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。